

E1A新東名高速道路(海老名南JCT～御殿場JCT)連絡調整会議 (第5回)

説明資料

2022年12月16日

(1) E1A新東名高速道路の工事概要について

- 新東名高速道路 海老名南JCT～御殿場JCT間については、2017年度以降、順次開通しており、海老名南JCT～新秦野IC間、新御殿場IC～御殿場JCT間は、2022年4月までに開通済み
- 新秦野IC～新御殿場IC間（延長25km）において事業中
- 当該区間は、橋梁区間が約2割、トンネル区間が約5割と構造物比率が高く、特に山北町や松田町域では急峻かつ狭隘な山岳地形の中、大規模な橋梁やトンネルの工事を推進中



(2) 伊勢原大山IC～新秦野IC間の状況について

・2022年4月16日に、伊勢原大山IC～新秦野IC間(約13km)が開通



秦野丹沢SA付近(秦野市域)



開通式の状況

(3) 新秦野IC～新御殿場IC間の工事進捗状況について

- ・全線にわたって、橋梁やトンネルなどの道路本体工事に着手しており、技術的課題はあるものの、着実に工事を実施中



高松トンネル付近（松田町域）



向原切土付近（山北町域）

至 名古屋



撮影 2022.11

至 東京

小山町域では、新型コロナウイルスの影響による用地明渡しの遅れや、場外盛土場の協議に時間を要しているものの、着実に工事を進めている

小山PA (仮称)付近 (小山町域)

至 名古屋



撮影 2022.11

至 東京

御殿場市域では、橋梁工事が全て概成し、残る土工工事を進めている

新御殿場IC付近 (御殿場市域)

○高松トンネルの施工状況

- ・脆弱な地山の出現や断層破砕帯でトンネル切羽の崩落等により工事が難航しており、有識者に相談しながら慎重に工事を実施
- ・追加調査により、既往調査では把握できなかった地質や断層破砕帯を確認
- ・掘進済区間の施工実績を踏まえ、追加調査により把握した未掘進区間の地質や断層破砕帯に対応した対策工を確認

■ 脆弱な地山の出現

- ・高松トンネルに点在する緑色凝灰岩は、地山の状態では安定しているが、掘削後水に触れると、浸水崩壊・膨張する性質が強く、トンネル内空断面の変形が発生

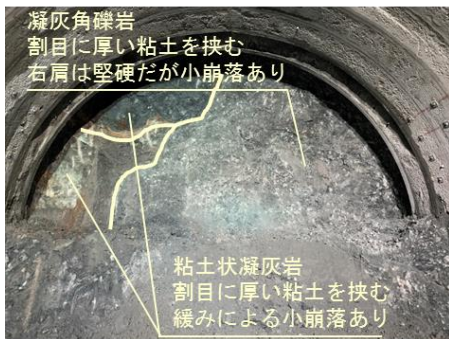


浸水30分後



■ 断層破砕帯での掘削

- ・断層破砕帯区間では、トンネルの変形や切羽の崩落が発生



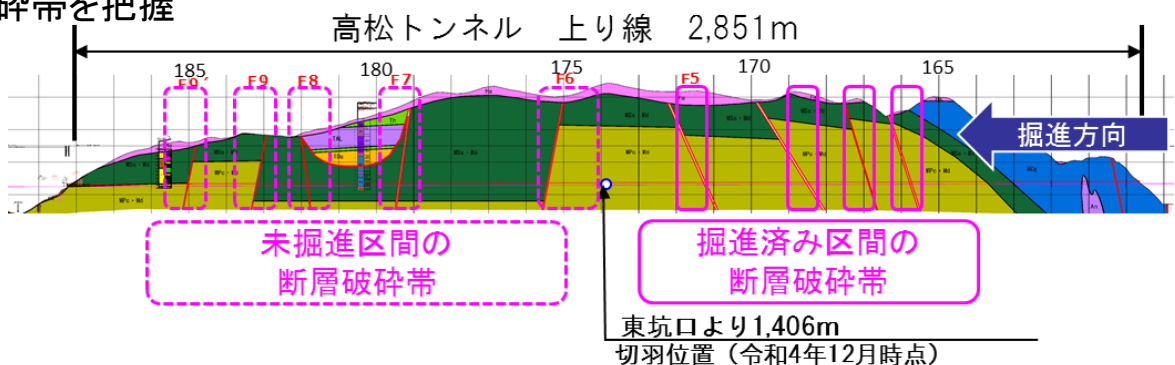
トンネル切羽の岩に厚い粘土層が出現し、崩落が発生



トンネルの天端や切羽が崩落し、土砂が落下

■ 追加調査の実施

- ・追加で実施したボーリングや空中電磁探査により、既往調査で把握できなかった地質や断層破砕帯の存在を推定
- ・トンネル掘削を行いながら、坑内より水平ボーリングおよび弾性波探査を実施することで、空中電磁探査等で把握した地質や断層破砕帯を確認
- ・追加調査と掘削済み区間の掘削状況から、未掘進区間における地質や断層破砕帯を把握



■ 脆弱な地山や断層破碎帯の対策工

- ・施工時に得られたデータを踏まえ、脆弱な地山や断層破碎帯における対策工・補助工法を選定し、有識者に妥当性を確認

(脆弱な地山の対策工)

- ・トンネル切羽の崩落やトンネル内空断面の変形を受け、工事の安全性やトンネル本体の長期の耐久性を高めるための対策工を実施



鏡吹付コンクリート



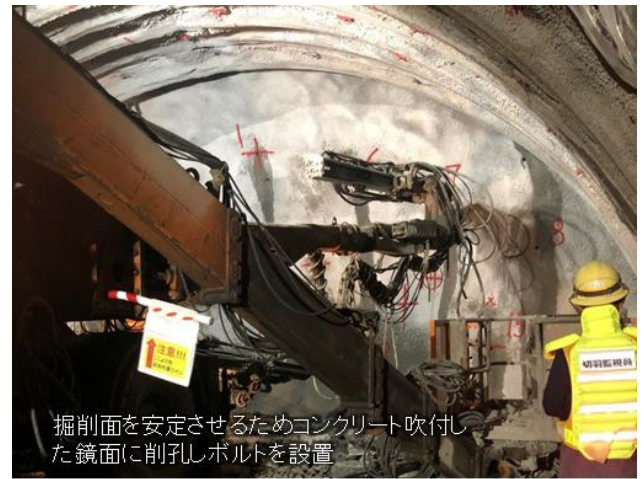
インバートストラット

(断層破碎帯の対策工)

- ・施工時に得られたデータを活用し、適切な補助工法を選択



長尺鋼管フォアパイリング



鏡ボルト

■ 未掘進区間の対策工

- ・追加調査等により確認した未掘進区間の地質や断層破碎帯においては、掘進済区間と同等の対策工を継続

○工程精査結果

- 高松トンネルの掘削にあたっては、脆弱な地山や断層破碎帯が確認されていることから、有識者に意見を伺い地山に適した対策工を実施しながら掘削を行っている。
- 高松トンネルの未掘進区間には、追加で行った調査によって脆弱な地山や断層破碎帯が確認されており、引続き、地山に適した対策工等を実施しながら慎重に工事を進めていく。
- 以上より、工程を精査した結果、新秦野IC～新御殿場IC間を2027年度（令和9年度）の開通予定に見直すこととし、引続き安全を最優先に工事の進捗を図りながら工程短縮に努め、1日も早い開通を目指す。

